

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101950		
法人名	社会福祉法人 緑葉会		
事業所名	グループホーム さくら 「第1ユニット」		
所在地	長崎県西海市大瀬戸町西濱郷1603-12		
自己評価作成日	平成22年12月18日	評価結果市町村受理日	平成23年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周りは緑に囲まれ、畑には季節の野菜を作り、利用者と共に収穫し食べる楽しみも味わっている。併設する施設の行事(クリスマス会・運動会・文化祭・夏祭り)に参加し、家族・地域の方・ボランティアの方々との触れ合いの場が設けられている。
また、施設独自の行事(ドライブ・節句・敬老の日等)も計画されており、「一日1回でも心から笑いのある生活」を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「いくつになっても自分らしい生活がしたい」という利用者の思いを表現した理念である。理念の基、利用者は広い敷地の中の施設で職員に見守られながら、ゆったりした時間を過ごしている。事業所敷地は地域の夏祭りや、住民の避難場所に提供する等しており、地域との連携が強い。職員は利用者の気持ちを優先し、地域の中で暮らす利用者の喜びに繋がることを常に考え工夫を行っている。また一人ひとりの介護目標については日々、達成に向けて全職員で話し合い、実行し評価を行って少しでも目標に近づくよう支援しており、まさに理念である利用者の思いが職員に浸透した事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101950		
法人名	社会福祉法人 緑葉会		
事業所名	グループホーム さくら 「第2ユニット」		
所在地	長崎県西海市大瀬戸町西濱郷1603-12		
自己評価作成日	平成22年12月18日	評価結果市町村受理日	平成23年6月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設周りは緑に囲まれ、畑には季節の野菜を作り、利用者と共に収穫し食べる楽しみも味わっている。併設する施設の行事(クリスマス会・運動会・文化祭・夏祭り)に参加し、家族・地域の方・ボランティアの方々との触れ合いの場が設けられている。また、施設独自の行事(ドライブ・節句・敬老の日等)も計画されており、「一日1回でも心から笑いのある生活」を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いくつになっても自分らしい生活がしたい」理念の変更は、開設時のまま変更はなされていないが、理念に添って入居者のやりたい事・したい事の訴えを受け止め、支援の実践に取り組んでいる。	理念についての職員のアンケート結果から、多くの職員の意見を基に「利用者の気持ちに立ち地域の中で生活する利用者を大切にしたい」ということを重視した理念の実践に努めている。利用者の思いを生活歴や日々の生活から把握し職員間で共有しながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ドライブの計画・買い物のお誘いをし、地域参加に努めている。 また、地域の子供会・保育所・小学校からも訪問していただき交流に努めている。	施設のグラウンドを地域に開放しており、地域の夏祭りには職員も参加して、婦人部やボランティアとの交流を行っている。子供会や保育所からの事業所訪問では踊りやプレゼントなどがあり利用者の楽しみとなっている。学校の職場体験も受入れており日々交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所としては特に行っていないが、地域での福祉の話し合いに自主的に参加し、必要に応じて経験を話したり困り事時には、相談にのれる事を訴えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時に、市・地域・同業者との情報交換や意見をいただきサ、サービスの向上に努めている。 また、いただいた意見により、取り組みに繋がった事は報告を行っている。	会議は2ヶ月1回規定のメンバーで実施しており、外部評価や利用者の状況、行事等が報告されている。事業所が野菜類を宅配で購入しているため、地域の野菜直売所に利用者を連れて行き地域の方とふれあいながら購入してはどうかとの提案があり実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に、市担当者に情報や助言をいただいたり、取り組み事項の報告等を行っている。	運営推進会議に市担当課が参加しており、会議後に事故報告の基準、報告の仕方などを尋ねて即対応してもらっている。他にも情報をもらうなどして協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員に周知徹底をすると共に、勉強会の議題にも取り上げている。 玄関にドアベルを取り付け外出傾向者の希望に応じ職員と一緒に散歩出来るよう対応している。	身体拘束をしないケアの勉強会を行い、言葉による拘束については事例をあげて拘束のないケアに取り組んでいる。日中、玄関は施錠せず、職員は常に目配りをしながら職員間で声かけをして、外へ出たい利用者には制止せず、見守り同行するなど工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設の施設が虐待防止委員会を設置し担当の職員が研修に参加している。 勉強会の議題にも取り上げ、防止策の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域での同業者の研修会の議題にも取り上げて貰い、学んだ事を勉強会でも話し合い支援できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書・重要事項説明等を用いて利用者及び家族にも同意を得て署名捺印をした物をお互い各1部づつ保管している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の利用料金お知らせ時に、意見・要望書の用紙を毎会同封している。 また、玄関に受付箱を設置し、意見が出しやすい様に努めている。	運営推進会議の中で家族から意見が出にくいとの声から、葉書のアイデアを受け利用料請求に同封し家族から意見をもらっている。体操など体を動かして欲しいという要望はすぐに反映している。また、契約時に外部相談窓口の説明するなど意見が出しやすいよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	在宅福祉課長や併設事業所の上司に相談し事業に関する確認・運営改善対策に反映させている。	1週間に2日、法人本部の来所があり、記録等の注意や指導を受けている。職員は指導を受け、自ら今後の課題改善と目標達成に取り組んでいる。職員の意見や提案からリクライニングベッドの購入につながるなど、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所上司が、短期的に訪れ様子を親たり話を聴く場面がある。 また、管理者と上司が話し合いを行う場を随時設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの実際において悩み相談を話せる状況を作っている。 また、外部の研修を交代で受講する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1度(第2水曜日)に市内の同業者との研修に参加し、情報交換等を行っている。 また、参加者は勉強会において発表を行う場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に出来る限り面会し、生活歴・疾患の悩み・希望を傾聴し、スタッフ間で共有を行い、入所後安心して暮せる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の不安な事、要望を傾聴し、居宅・医療機関等からの情報を収集し、入所後の支援がスムーズに行くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所後の本人の状態を細かく記録し、情報の共有を行いスタッフ間でのサービス内容を、本人家族に説明し同意を得て導入に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人がやりたい事・出来る事を一緒に考え、一緒に支援出来る体制を作れるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	さくら祭り・夏祭り等の行事の案内を送付し、参加をお願いしている。 面会時には家族との時間を作れるよう、各自の居室にて過ごして頂ける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所者同士が知り合いの関係だったり、また入所者の方に説明をして頂ける様に、ドライブの場所を検討し支援を行なっている。	利用者は地域の方が多いため、家族の面会で顔見知りの場合があり利用者へ手編みソックスのプレゼントなどがある。家族との電話や手紙のやり取り、誕生日の祝い花が届き、家族の協力を得て外出を兼ねた食事へ出かけるなど馴染みの場や人との関係継続につながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団ケア(体操・物作り)に参加して頂き、入所者同士が同じ輪の中で支え合うことが、出来るよう見守りながら支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じその方の退所後の状況を尋ねたり、季節の挨拶に「さくら」の状況を伝えるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人・家族から趣味や好きな事、出来る事を伺い希望に添うように努めている。 また、困難者には、発する言葉・表情・から読み取り、職員間での課題として検討している。	生活歴や日々の様子、会話、面会時に家族から聞いたことをメモして情報を共有している。利用者自身意思表示をされる方が多い。困難な方の場合は表情や動作、声かけをこまめに行うなどして本人本位に検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に居宅事業所から情報を収集し、本人・家族に確認及び新たな情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムに合わせ支援している。 自分で出来る事は行って貰い、スタッフは見守りにて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当を決め、勉強会や日々の申し送りや話し合い評価し、本人・家族からの意見を取り入れながら介護計画書を作成している。	担当職員は原案作成から関わり本人、家族の意見が取り入れられた計画となっている。3か月ごとの見直し時、日々のチェック表を基に援助内容を話し合い実施状況や評価を全職員で確認し合っている。入退院等の急変に応じた再作成も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入すると共に、申し送りにおいても報告している。 また、ケアの実践記録表を活用し、情報の共有・計画書の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々の要望に対応出来る様、決まりごととは多く作らず柔軟な支援が出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防には、協力を得るようお願いしている。 民生委員や地域のボランティアの方にも協力を頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する医療機関を伺い希望に添うようにしているが、無理な場合は協力医院を紹介し納得の基受診の支援を行なっている。 受診後の報告、服薬についても随時報告を行っている。	利用開始時に協力医の説明も行った上で、本人、家族の納得が得られるかかりつけ医を決定し支援を行っている。受診は職員が同行しており、受診結果は家族に知らせ個人経過記録に記入し職員で共有している。第3金曜には歯科医の往診があり口腔ケアも実施されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	緊急時や応急処置が必要時は併設の施設看護と連携が取れるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーとの連絡・連携を図っている。 また、定期的に病院を訪問し担当看護師と、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・事業所と十分に話し合い、主治医の協力の基、重度化しても支援できるようにしているが、医療的処置が常時必要性がある場合は、医療の協力を得る事を、説明し支援している。	終末期については医療行為の必要性が継続した場合、かかりつけ医に相談し、医療機関への移行を検討する方針が固まっているが、契約時の家族への説明は口頭のみで文書化されていない。また、高齢化する利用者について職員の不安も見られる。	事業所で支援できる限界を明確にした重度化や終末期に向けた方針を文書化し家族に説明し、同意を得ることが望まれる。また指針は事業所内に周知し、職員の不安払拭への取り組みにも期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設施設が実施する、消防士による救命講習に参加し、勉強会において再度訓練を行い対応出来る様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、避難方法・場所の確認を行っている。 そのうちの1回は消防署からも来て頂き、訓練後の講話をいただき改善に繋げている。	年2回の避難訓練を実施しており、内1回は消防署立会いの下、指導や助言を受けている。想定は昼夜や火元を変え、現実に近い訓練になっている。自然災害での食料備蓄もあり、敷地内グラウンドは地域の方の避難場所として提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さり気ない言葉で、トイレ誘導を行ない、本人の表情や言葉を観察しながら対応をしている。	職員は羞恥心の検討会等を行い、利用者の人格や誇りを損ねない対応に心がけており、トイレ誘導の言葉かけなど工夫している。個人情報についてはキャビネットに保管し職員の守秘義務も誓約書を交わされている。ただし、日頃の連絡等にメモを活用しているが、その処理方法が明確ではない。	現在、個人情報に書かれたメモを掲示して職員間で共有等を行っているが、処理方法について再度、全職員で話し合い周知し徹底する工夫を期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者本人が選択できる場面を提供したり、行動・会話の中から思いを汲み取り、やりたい事・出来る事を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は心にゆとりを持ち、入所者一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所者の希望に応じた髪型、服装が出来るよう支援し、衣類の整理整頓にも努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある献立をつくり、又食べたい物の希望を伺い、準備から後片付けまで出来る事を一緒に行い、食事をしている。	職員が4日分ごと交代で献立作成をしており、利用者の食べたいものや季節の食材を取り入れている。利用者の持っている力を活かし、自分で食べることを基本にそれぞれ食事の形態も支援している。自家栽培の野菜は利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入所者の咀嚼・嚥下状態により対応を変え摂取して貰っている、また摂取量の確認も行い、水分もお代わり出来る様準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアや夜間の義歯の洗浄を行っている。毎月1回歯科医による口腔ケアも行い指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄動作もリハビリの一環とし座位姿勢が可能な限りトイレでの排泄を支援し、入所者の排泄間隔を把握し、尿漏れゼロに向けて支援している。	排泄の自立に向け職員が声を掛け合い、利用者の動作や目線でサインを見逃さず支援に取り組んでいる。現在、日中はほとんどの方が布パンツにパッドを利用し、職員は常に利用者の快適さを考え、できる限りトイレへの誘導介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所者の排便状況を把握し水分回数を増やしたり、牛乳・乳製品を摂取してもらっている。又体操・歩行訓練に参加して頂き、出来るだけ薬に頼らない排便を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は体調に十分気をつけ、湯の量を増やしゆっくり楽しめるように支援している。希望者には週2回以上対応出来る様に努めている。	風呂は毎日沸かしており、利用者の希望に応じて対応している。入浴拒否の方の場合は時間や翌日にずらして声掛けを行っている。温度や入浴剤で利用者がゆったりと楽しみながら入れる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の傾眠状況・夜間の睡眠状態を把握し休息の声掛け支援を行なっている。日中は、体操・散歩などの活動に参加して頂き夜間の睡眠が十分取れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所者の個々の薬の目的・用法・用量を把握し服薬支援を行なっている。症状の変化にも配慮し、誤薬防止の為、2人体制で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常家事において入所者の残存機能を活かせるよう、役割分担をしている。生活歴の中から集団で取り組める「お手玉づくり」を行いそれぞれ出来る部分をして貰った。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出する機会を作って貰ったり、施設でドライブの計画を立て参加してもらっている。地域での買い物にも声掛け同行して頂いている。	日常的な外出は広い敷地内で、四季折々の花を楽しみながらの散歩を行っている。また近くの薬局で買い物を楽しむ利用者もいる。同法人事業所が隣接しているため、法人のリフト車を利用して車イスの方も一緒に家族と協力してドライブを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は所持して頂き家族の方に面会時確認を依頼している。 買いたい物がある時は、可能な限り買い物に誘い、使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所者が希望される時は支援を行なっている。 また、受け取った品物や手紙の返事を書くように声掛け支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間の場合には月々の季節を味わえる塗り絵・貼り絵等を一緒に作り飾っている。 リビングには大きな窓があり、周囲の自然の移り変わりを目で楽しむ事ができる。	リビングの窓は広く四季折々の自然の景色が見られ、明るく換気も良く気になる臭気もない。掃除は、毎日朝から職員が行っており、空気清浄機を設置し清潔保持に配慮している。手作りの壁飾りや生け花があり家庭的で居心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き自由にくつろげるようにしている。又両ユニット間を自由に行き来し馴染みの方と会話を楽しめる事が出来る様支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みの家具や布団・テレビ・仏壇など持ってきて頂いている。 また、鉢植えや写真を飾りいつでも観る事が出来る様にしている。	居室はベッドとクローゼット以外は利用者や家族の希望で置かれている。馴染みの物や位牌、家具、ソファ、家族の写真などがある。掃除は職員と一緒に毎日行い、天気の良い日は窓を開ける等本人が心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・お風呂の表示を、大きく見やすい場所に掲示している。 また、各自の居室には名前のほか、イラストで花を表示している。		